

生徒が図書に触れる契機を増やすための取り組み

1 学校の概要

①所在地 福島県喜多方市山都町字上ノ山平4299番地1

②学級数2 (産業技術科1、ライフコーディネイト科1) 生徒数31人

(令和7年1月現在)

③図書館蔵書数 13363冊 (令和7年1月現在)

2 読書活動推進へ向けた取り組み

①「読書報告書」

全生徒に夏季課題として読書報告書の提出を課している。長期休業中に本に触れるきっかけを与えつつ、著者に関する情報を書き込む枠や、心に残った一文の枠を設けるなど、生徒が気負わずに取り組める内容にしている。また、提出された内容を精選し、各クラス数名分を年度末に発行する図書館報に掲載している。

②「お薦め本」のポップ作成

前年度からの取り組みとして、生徒にお薦め本のポップを作成させた。今年度は図書館内にある本から1冊選ばせ、二学期の国語の授業においてポップ作成に取り組ませた。作成したポップは授業内で相互評価を行ったのち、図書館内への掲示と図書館報に掲載するようにした。



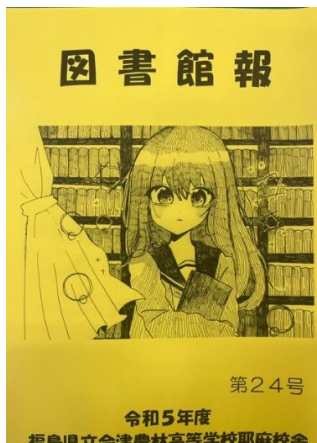
③「朗読劇」の開催

秋の読書週間の時期に、図書部主催の行事として「朗読劇」を開催した。外部の朗読サークル「アグリーダックス」を招聘して行う図書部主催のイベントで、今年度は『てぶくろを買いに』、『蜘蛛の糸』『あるへラジカ物語』の朗読のほか、オカリナやヴァイオリンの生演奏もご披露いただいた。生徒からは各物語への感想はもちろん、「年齢を重ねるにつれて読み聞かせを聞く機会も少なくなる中、朗読劇を通し読書の楽しさを改めて感じる事ができた」といった声も聞かれ、有意義な読書体験の時間となった。



④「図書館報」の作成

毎年3月1日に発行する「図書館報」は、教員による読書に関する寄稿文と、生徒による読書報告書、俳句等の創作を掲載している。寄稿の依頼や、挿入するイラストカットを図書委員に任せるなどして、生徒が主体的に作成・編集作業に関わる機会も設けている。



⑤「図書便り」の発行

図書館の利用の仕方や、新規購入の本の紹介を行う「図書便り」を年2回(1・2学期末)発行している。今年度も、多くの生徒・教員に図書館を利用してもらえるよう、話題となっている本を紹介したり、図書部の活動報告を掲載したりして、内容の充実を図った。

